

法界節

- 三国一の富士の自雪朝日で解ける
「娘島田は寝てとける キタホーカイ」
ソラ娘島田はネーソラ娘島田は寝てとける キタホーカイ」
- 高い山からね、高い山から谷底見れば
「うりや茄子びの花盛り キタホーカイ」
----- 繰り返し-----」
- 朝咲いて夜露にしほれる朝顔さいも
「はなれまいとてからみつく キタホーカイ」
- お前さんと寝てお前さんと寝てこの目がなほりゃ
「お前目医者か、目薬か キタホーカイ」
- ほおづきは青いうちからもぎ取られ
「いじられ、くじられ棒をさされ キタホーカ」
- お前さんかいね、お前さんかい流しの外で
「鳴いた松虫音を止めた キタホーカイ」。
- 信州信濃のね信州信濃の新そばよりも
「わたしゃあなたの側がよい キタホーカカイ」
- ホトトギス確か鳴いたと庭の戸開けて
「見れば今宵の月ばかり キタホーカイ」
- 我が恋いダイスにかけたる鉄びんよ
「沸かされ、さまされ水さされ キタホーカイ」。
- 来るか来るかととね来るか来るかと川下見れば
「河原柳の影ばかり キタホーカイ」・
- 丸い卵もね、丸い卵も切り様で四角
「物もいい様で角が立つ キタホーカイ」
- 咲いた桜にね咲いた桜になぜ駒つなぐ
「駒が勇めば花が散る キタホーカイ」
- お前百までわしゃ九十九まで
「共に日髪が生えるまで キタホーカイ」
- 泣いて別れてね、泣いて別れて松原行けば
「松の露やら涙やら キタホーカイ」
- 立てば芍薬ね、立てば芍薬座れば牡丹
「歩む姿は百合の花 キクホーカイ」
- それだから僕が注告したではないか
「芸者の誠と雪駄の裏金は キクホーカイ」
- 金のあるうちは、金のあるうちはチャラチャラと
「金がなくなりゃ切れたがる キタホーカイ」
- そりゃうそだ命の芸者は麻裏草履
「金がなくても切れはせぬ キタホーカイ」

- 主さんと先月別れてまだ便りなし
「聞いて見たれば明日帰る キタホーカイ」
- 1日も早く年あき主の側
「縞の着物に婦子の帯 キタホーカイ」
- 遠く離れてね遠く離れてあいたい時は
「月が鏡になればよい キタホーカイ」
- 来たら寄りなよね、来たら寄りなよおら家ここだ
「寄れば湯も茶も酒もある キタホーカイ」
- 可愛いお方にね可愛いお方に草刈させて
「鈴の鳴るたび出て見たい キタホーカイ」
- 可愛いお方がね可愛いお方が草刈行けば
「涼し風吹け鎌切れる キタホーカイ」
- 私、今晚ね私今晚声かれました
「情けある方音頭を頼む キタホーカイ」